

2004 年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2005 年 1 月 30 日

I 概要

実践団体・担当者名	名古屋市立大曽根中学校 (担当者：瀧田健司)	
連絡先	愛知県名古屋市北区上飯田東町 2-100 052-913-2266	
プランタイトル	大曽根を地震に強いまちにしよう 「大曽根レスキュー隊」	
目的	中学生が、自分たちの住むまちの防災について考え、まちの防災力をアップするための活動を行う。まちを舞台にまちのために役立つことを行うことで、生徒の自信とまちづくりの主体者としての意識も高める。	
プランの概略	<p>総合的な学習の時間で、第1学年の生徒全員が「大曽根レスキュー隊」として、まちの防災について学習し、活動する。</p> <p>生徒は、専門家やまちの人と関わりながら、</p> <p>4つのプロジェクト A それぞれの家で必ず備え隊 (略称：家庭)</p> <p>B 地震時のまちの安全確かめ隊 (略称：防災マップ)</p> <p>C 一人でも多くの命助け隊 (略称：救助)</p> <p>D 避難所で快適ライフ過ごし隊 (略称：避難所ライフ)</p> <p style="text-align: right;">に分かれて活動する。</p> <p>まちの防災力を高めるための活動や提案を、まちの人に向けて行い、まちの人からの評価をもらう。活動に対するさまざまな評価をもとに振り返ることを通して、まちの役に立つことができたことを確かめ、今後も自信を持って、防災をはじめとする、まちのための活動に取り組んでいこうとする。</p>	
プランの対象と参加人数	名古屋市立大曽根中学校1年生202人	
実施日時	2004年9月～2005年3月	
主な実施場所	名古屋市立大曽根中学校と学区内各所	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	① NPO法人レスキューストックヤード ② 名古屋きた災害ボランティアネットワーク ③ NPO法人まちの縁側育み隊 ④ 名古屋市北消防署 ⑤ 富士常葉大学劇団ふじさん
	連携したきっかけ・理由	①と③ これまでに行ってきた「まちづくり学習」において連携していたため、引き続き講師として連携を依頼した。 ② 名古屋市北区役所の紹介で連携した。 ④ 普通救命講習を依頼した ⑤ 本プランを通して知り合い、連携した。
	連携団体へのアプローチ方法	本校から、電話やメールなどで連絡し、連携を行った。
	連携団体との打合せ回数	①とは随時、②～⑤はとは3回ほど。

	連携団体との役割分担	①～④講話、実技講習 ⑤ 演劇の公演 企画は本校教諭が行い、連携団体からは専門的なアドバイスや実技指導などを受けた。
--	------------	--

II プラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	10名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 河路隆行（名古屋市立大曾根中学校長） 企画・渉外 瀧田健司（同校教諭） 実施 同校第1学年所属教員 10人
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	2004年 4月 ～ 2005年 9月
	立案時間	約20時間
	上記のうち打合せ回数	10回
プラン立案で注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学習活動への意欲を持続させるように。 ○ 具体的な取り組みになるように。 ○ まちの人との関わりがもてるように。 ○ 専門家と連携できるように。 	
プラン立案で苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの生徒が同時に、様々な活動を行い、様々な人が関わるプランであるため、活動の全体像を、生徒、まちの人、専門家、教員スタッフにわかりやすく示す必要があった。 ○ 4つのプロジェクトそれぞれのアウトプットの方法をどうするか、実現可能性を探りながらのイメージ作りに苦労した。 ○ まちの人、専門家と連携をとり、正規の学校カリキュラムに合わせて日程を調整することに苦労した。（中学校では時間割を動かさづらい） 	

III 実践にあたっての準備

準備に関わった方と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	10名
	外部スタッフの総人数	6名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 河路隆行（名古屋市立大曾根中学校長） 企画・渉外 瀧田健司（同校教諭） 実施 同校第1学年所属教員 10人 連携団体が外部スタッフとして関わり、教諭から出された授業（活動）プランに対して、専門的な立場から、その内容を検討し助言した。また、生徒向けの資料などを準備した。
準備に要した日数・時間	準備期間	2004年 9月～ 2004年 2月
	準備総時間	約30時間
	上記の内打合せ回数	約20回
教育関係への働きかけ	働きかけた教育関係者・機関名	名古屋市立大曾根中学校(本校) 名古屋市立宮前小学校、名古屋市立飯田小学校、 名古屋市立六郷北小学校、名古屋市立六郷小学校

	どのように働きかけたか	本校内では、職員全体への周知を行った。 上記の4つの小学校はすべて本校の学区内にあり、避難場所になっているため、その施設等の見学許可を依頼した。
	結果	小学校には快諾いただき、協力していただいた。
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	区政協力委員長、コミュニティーセンター、区役所、消防署
	どのように働きかけたか	実際に訪問し、協力を依頼した。
	結果	どこも大変協力的に対応していただいた。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	本校保護者
	どのように働きかけたか	保護者会のおりに話す。学年通信を通して活動を伝える。
	結果	生徒の活動について知ってもらうことができた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	① スクリーン、プロジェクター、PCなど ② 上記「プランの概略」にある活動Aでは、市販の救助袋、手作りの防災ずきんなど ③ 活動Bでは、拡大コピーした地図、シールなど ④ 活動Cでは、心肺蘇生訓練用のダミー人形など ⑤ 活動Dでは、炊き出し用の鍋や、非常食など
	入手先・入手方法	① 校内の備品を活用 ② ホームセンターなどで入手 ③ 事務用品店で入手 ④ 消防署などで入手 ⑤ 区役所から入手
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	それぞれの活動に直接関係する、具体的なものを選んだ。
参加者の募集	募集方法	本校生徒は、授業として参加。 保護者には、発表会や授業参観への案内を配布。 地域の人一般には、発表会の開催を回覧板などを通して告知。
	募集期間	2000年 1月20日 ~ 2月22日
	参加予想人数	発表会への参加予想 100名(生徒を除く)
	実際の参加人数	名 2月23日実施予定
	募集方法の成功点	発表会をまだ行っていないため、記入できず。
	募集方法の失敗点	同上
準備で苦労した点・工夫した点	○ 様々な活動が同時に行われるため、それぞれの活動の内容や進捗状況など、学校職員間での共通認識が持ちにくかった。 ○ 活動を進めながらでないと、必要な物品や準備が見えてこないため、なかなか計画的な活動支援が行えない。 ○協力いただいている専門家に、各活動場所を順に回ってもらい、アドバイスがもらえるように工夫した。	

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月	チャレンジプランへの応募検討		2003年度の実践の まとめ作成
12月	チャレンジプランへの応募内容 の検討, 企画書の作成		
2004 1月	↓		↓
2月			
3月			
4月	総合的な学習の年間プランを作 成し, 防災学習の位置づけと, 学 習の時期を決定		関連学習（総合） 出会い, 発見, 大曽根の まち
5月			↓
6月			
7月			↓
8月			
9月	大曽根レスキュー隊の概要と, 日 程の素案を示し, 関係機関, 団体 と打ち合わせ	授業の実施に向けて準備を始める	22日に第1回の授業を 行い, 活動が始まる
10月	授業の進行に合わせて随時打ち 合わせをしながら, プランの修正 を行う	授業の進行に合わせて, 準備を行う	総合的な学習の時間に, 活動を行う。
11月	↓	↓	↓
12月			
2005 1月	↓	↓	↓
2月			まちの人を招いて発表 会を行う
3月			ふりかえりを行う

